

## 看護部業務担当婦長としての1年

看護部業務担当参事 岩井照代

看護部の体制が2000年10月より業務・教育の2名体制になりました。私は業務担当として日常の業務の中では、出来るだけ各セクションの婦長たちが管理業務を円滑に行えるようサポートに勤めました。提出書類・空床利用の調節・事故報告書の管理・分析、オーダリング導入計画の看護部におけるサポート等、依然とは違った業務内容になかなか希望される内容が出来ず、2名体制になった効果が上げられず苦慮する1年でした。日常業務は日々、各セクションの業務の中で管理業務のみをすることが出来ずスタッフとともに看護業務を行わなければならない婦長に、少しでも管理業務の負担を少なくすることと、精神的ストレスを解消することの出来る看護部であるように努めました。

オーダリング導入の看護部の担当として、1番導入に消極的でパソコン拒否反応を示しやすい看護職員に、2000年秋よりパソコン教室を総務部の協力を得て実施し、名寄市のITセンターを活用しパソコン教室を開催してきました。また勤務表の作成・会議録の記載等をパソコン活用し婦長からパソコンに慣れていただくようにしました。これからの時代パソコンは仕事の一部となることへの理解と、オーダリングの導入により時間を有効活用し、十分に看護業務を行えるようになることが目標です。オーダリングの導入により、患者さんのベットサイドでの看護業務の時間が増えるのは難しいが、これを機会に看護業務に対する考え方が病院職員の中で見直すことが出来るように考えています。病院全体でも、有効に運用出来るように、オーダリング事務局の1員として、各セクションとの調整役に努力していこうと考えています。今後は、2次稼働の看護支援システムに向けて看護計画の作成と、ワークシートの内容検討するときにフローシート等の標準化が必要となるため、2月よりWGを開催し検討をしていく予定です。

事故防止に関しては、平成12年から現在までの報告書の内容のデータ入力と、分析をしました。内容は総数平成12年度158件、平成13年度は12月までで246件と報告が多くなっている、これは

報告をして対策を考え、大きな事故を防止したいという意識が強くなったと考えます。

ヒヤリハットの報告書がレベル0で正確に提出されることにより、報告書の枚数が増加しましたが対策が有効に作用して、未然に防止できた例が多くなっています。種類別には与薬・処方が、H12年は68件でH13年は99件でレベル0を除くと67件です。療養上の世話が、H12年には67件、H13年は93件で、レベル0を除くと66件です。ドレーンなどチューブ類の管理は、H12年は9件でH13年は46件でレベル0を除くと27件でした。増加はしていますがレベル3がこのまま減少してくれることを願っています。今後はもっと情報をフィードバックして、有効な事故対策を皆で共有して、防止に努める必要があると感じています。事故防止看護部会では積極的に、研究やマニュアルのフローシートを作成、ヒヤリハット報告書の形式の見直し、新聞の作成に取り組んでいます。全員が事故に対する自覚を持って看護をすることが出来るように環境を整える事、私は婦長のサポートをして、各職場でしっかりと管理体制が作れるようにしていきたいと考えています。看護職の憩いの場に出来れば、もちろん看護職以外の方も憩いの場としてお話に来てください、お待ちしております。

レベル別に（ヒヤリハットを0とする）

年	レベル	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
H12年		0	68	84	6
H13年		88	156	36	1

(H13年12月31日現在)